

## 基本計画の目標指標と数値目標について

### [4]数値目標の設定とその考え方

中心市街地活性化の3つの目標のもと、以下に示すとおり目標ごとに1つの目標指標を設定する。

#### (1)「歩いて楽しい回遊性の高いまち」の評価指標の考え方

方針1：まちの強みをいかし、拠点形成とそのネットワーク化を図る

目標：歩いて楽しい回遊性の高いまち

指標：歩行者通行量（人/日）

「歩いて楽しい回遊性の高いまち」の実現に向けては、活性化拠点のみが活性化するのではなく、拠点間を結ぶネットワーク化された活性化に取り組む必要がある。そのため、草津駅を中心とした中心市街地エリア内の集客ポイントとなる活性化拠点とそれらを結ぶ回遊性の向上を数値で表す評価指標の設定は必要である。また、その評価指標は市民に理解されやすく、かつ、継続的に測定できるものでなくてはならない。

そこで、そのための評価指標として、過去に測定実績もあり、まちの回遊性を計るのに最適と考えられる活性化拠点間の歩行者通行量を設定する。

#### (2)「個性的で魅力のある店舗が集積するまち」の評価指標の考え方

方針2：草津の活力を生み出す新たな事業者を創出する都市環境の形成を図る

目標：個性的で魅力のある店舗が集積するまち

指標：魅力ある新たな店舗の増加数（参考指標）

「個性的で魅力のある店舗が集積するまち」の実現に向けて、中心市街地エリア内の空き店舗や空き地を活用した個性的で魅力ある店舗の誘致に取り組む必要がある。これまでに草津市になかったような個性的で魅力ある店舗が誘致されることによって、集客拠点となり、まちの回遊性に寄与し、中心市街地の活性化にもつながると考えられる。

そこで、そのための指標として、計画期間内に新たに开店する魅力ある店舗数を評価指標として設定する。魅力ある店舗とは、中心市街地活性化のため新たに开店する店舗のうち、中心市街地活性化協議会及びまちづくり会社の公募などにより誘致した個性的で魅力ある店舗、及び来街者アンケートなど客観的な指標に基づき選ばれた店舗とする。なお、この評価指標については、明確な定義づけが難しく、過去のデータもないので、参考指標として設定する。

#### (3)「幅広い世代が交流するまち」の評価指標の考え方

方針3：「子ども」から「お年寄り」までの暮らしを支えるコミュニティや都市機能の強化を図る

目標：幅広い世代が交流するまち

指標：福祉・文化・交流施設の利用者数

「幅広い世代が交流するまち」の実現に向けては、子どもからお年寄りまで様々な世代の市民がコミュニティの中で生活し、交流できるような環境づくりに取り組む必要がある。そのため、中心市街地エリア内の福祉・文化・交流施設が様々な世代の市民の活動拠点になることが望ましく、活動の活発度を数値で表す評価指標を設定することが必要である。また、その評価指標は市民に理解されやすく、かつ、継続的に測定できるものでなくてはならない。

そこで、そのための評価指標として、過去に測定実績もあり、幅広い世代の交流を図るのに最適と考えられる福祉・文化・交流施設の利用者数を設定する。

[5]具体的な数値目標の考え方

(1) 歩行者通行量(平日 10時間:午前10時~午後8時 6地点)

「歩いて楽しい回遊性の高いまち」の実現に向けて、中心市街地の中心にある草津駅と活性化拠点を結ぶ3エリアと中心市街地エリアを東西に貫いている草津川跡地周辺の歩行者通行量を増加させるため、計6地点を歩行者通行量測定地点として選定する。

なお、具体的な測定地点は過去に商工会議所主催で行っており、過去からの経過のわかるものを選定している。また、参考として6地点以外の歩行者通行量も今年から平成30年までの数値を把握することとする。

ア. 駅東エリア

活性化拠点としてあげられる草津川跡地(マンポ周辺)と西友跡地の2拠点和草津駅を結ぶ地点を測定地点とする。具体的な測定地点として、草津川跡地~草津駅では下図の①、②の2地点、西友跡地~草津駅では③の1地点とする。

イ. 本陣周辺エリア

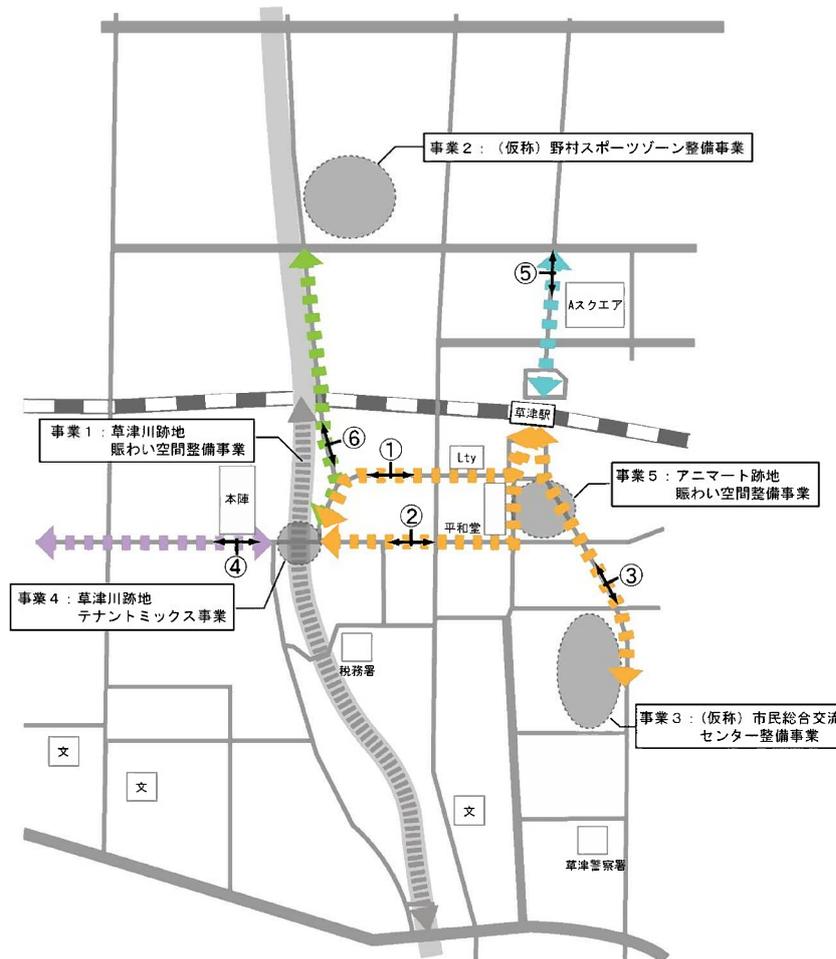
江戸時代から草津の中心地である草津宿本陣周辺と草津駅を結ぶ地点を測定地点とする。具体的な測定地点として、下図の④の1地点とする。

ウ. 駅西エリア

活性化拠点としてあげられる野村運動公園や A・スクエアと草津駅を結ぶ地点を測定地点とする。具体的な測定地点として、下図の⑤の1地点とする。

エ. 草津川跡地周辺

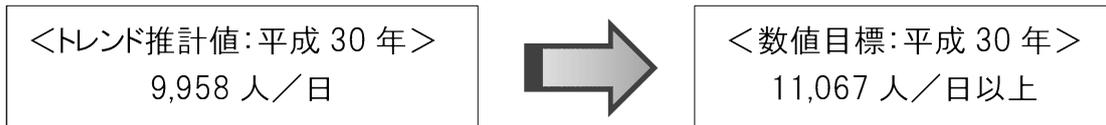
中心市街地エリアを東西につなぐ活性化拠点としてあげられる草津川跡地を測定地点とする。具体的な測定地点として、下図の⑥の1地点とする。



$$\text{平成 30 年数値目標} = \text{過去のデータからの (平成 18 年から平成 24 年まで) トレンド推計値} + \text{1,109 人/日 (平成 24 年から平成 30 年トレンド推計値の減少分)}$$

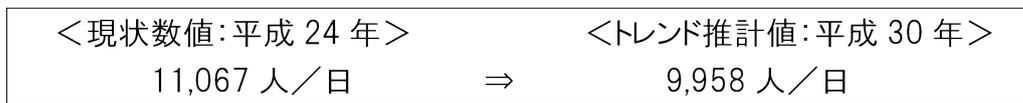
【数値目標】

・将来(平成 30 年)トレンド推計値により、現状(平成 24 年)の約 1,109 人/日の減少を想定している。これを事業等により 1,109 人/日以上増加させることにより、現状の通行量を減らさないことを目指す。



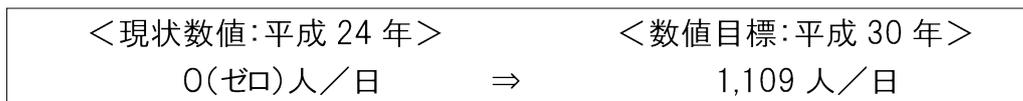
〔トレンド推計値〕

・現状の 1,109 人/日の減少で、約 10%減を推定

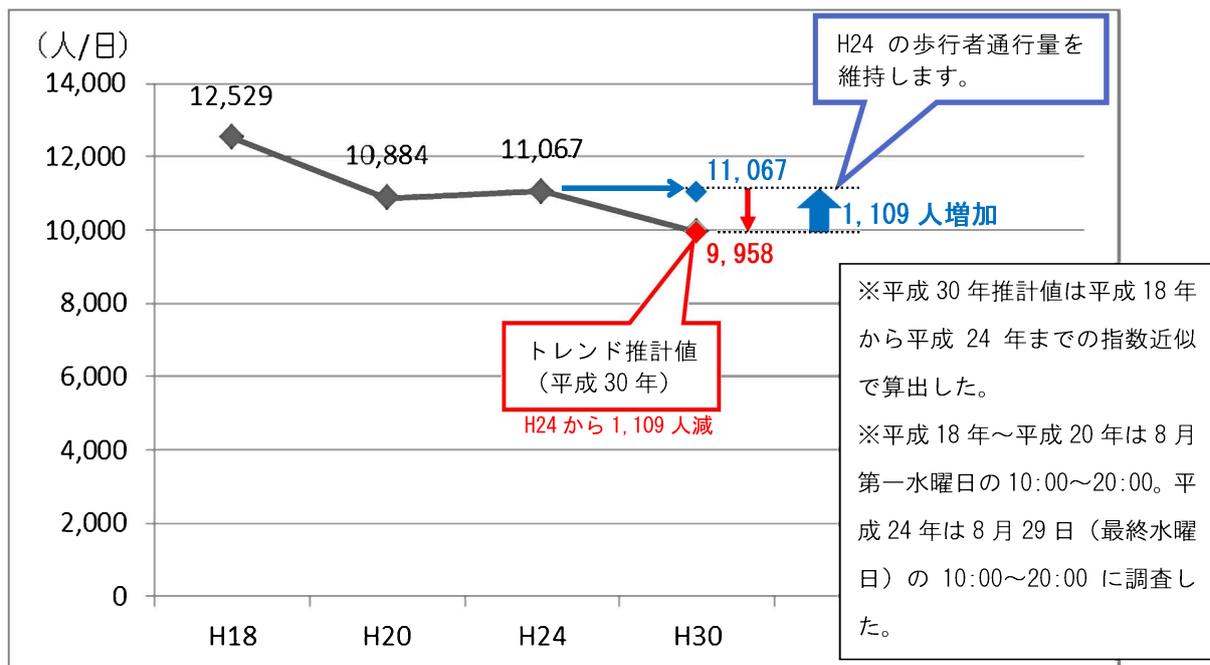


〔事業等による増加数の目標〕

・平成 30 年トレンド推計値の 1,109 人/日以上の増加を目指す



■数値目標の算出グラフ



各測定地点の過去のデータ(平成 18 年から平成 24 年までの推移)は以下のとおりである。

平成 24 年時点の歩行者通行量の 6 地点合計は、11,067 人/日で、過去のデータを用いて、指数近似式より、各地点の平成 30 年時点の歩行者通行量を推計すると、6地点合計が 9,958 人/日となる。平成 30 年時点の歩行者通行量は平成 24 年時点よりも 1,109 人/日が減少し、現状の約 10%減となる見込み。

[トレンド推計値]

・現状の 1,109 人/日の減少で、約 10%減を推計

<現状数値:平成 24 年> 11,067 人/日	⇒	<トレンド推計値:平成 30 年> 9,958 人/日
------------------------------	---	--------------------------------

### ■6測定地点歩行者通行量データ

エリア	測定地点	H18	H20	H24	H30推計値	H24~H30増減
駅東	①	2,792	1,515	2,546	2,321	▲ 225
	②	3,954	3,048	2,970	2,225	▲ 745
	③	1,927	2,199	1,546	1,241	▲ 305
本陣周辺	④	1,240	1,506	1,389	1,555	166
駅西	⑤	* 1,344	* 1,344	1,344	1,344	0
草津川跡地周辺	⑥	* 1,272	* 1,272	1,272	1,272	0
合計		12,529	10,884	11,067	9,958	▲ 1,109

( \* 印は、データがない及び使えないため H24 を用いた ) ⇒約10%減少

この平成 30 年トレンド推計値(9,958 人/日)に活性化事業実施による歩行者通行量の増加量(1,109 人/日)を足し合わせて、数値目標の達成を目指す。

### 2) 歩行者通行量増加に影響を与える活性化事業

[事業等による増加数の目標]

・平成 30 年トレンド推計値の 1,109 人/日以上を増加を目指す

<現状数値:平成 24 年> 0(ゼロ)人/日	⇒	<数値目標:平成 30 年> 1,109 人/日以上
----------------------------	---	-------------------------------

### ■活性化事業実施に伴う歩行者通行量増加量の推計

エリア、測定地点	歩行者通行量
ア. 駅東エリアの一部と草津川跡地周辺——測定地点①②⑥ ・草津川跡地賑わい空間整備事業、草津川跡地テナントミックス事業 500 人/日 ・アニマート跡地テナントミックス事業 273 人/日	773 人/日
イ. 駅東エリアの一部——測定地点③ ・(仮称)市民総合交流センター整備事業 142 人/日	142 人/日
ウ. 本陣周辺エリア——測定地点④ ・草津宿本陣歴史館整備事業 37 人/日 ・商店街空店舗テナントミックス事業 236 人/日	273 人/日
エ. 駅西エリア——測定地点⑤ ・(仮称)野村スポーツゾーン整備事業 54 人/日	54 人/日

合計	1,242 人/日
----	-----------

よって、1,242 人/日  $\geq$  1,109 人/日となり、目標数値を達成する。

歩行者通行量の増加につながる主な活性化事業ごとに、想定される入込客数、利用者数の考え方について、以下にまとめる。

ア. 草津川跡地賑わい空間整備事業、草津川跡地テナントミックス事業 【入込客数 30 万人増】

草津川跡地に関する「草津川跡地賑わい空間整備事業」と「草津川跡地テナントミックス事業」によって、草津川跡地にはカフェ等の飲食店や物販店などの新たな店舗が立地したり、緑あふれる空間に整備された広場ではマルシェなどのイベントが開催されたり、市民活動の場として利用されたり、新たな集客の拠点となることが想定される。これらの想定されているプログラムによる個別の想定年間入込客数は以下の通りである。

草津川跡地賑わい空間整備事業、草津川跡地テナントミックス事業の主な事業内容

施設	年間入込客数 (人/年)
カフェ等飲食、小売店、マルシェ、市民活動プログラム(園芸・スポーツなど)、市民活動プログラム(自然学習など)	30 万人

※類似施設(大津市なぎさのテラス、守山市歴史文化まちづくり館「うの家」)の入込客数を参考に算出

イ. (仮称)市民総合交流センター整備事業 【利用者数 4 万人増:全体 14.2 万人】

草津市東地区空閑地に建設予定の市民総合交流センターには、既存施設である市立まちづくりセンターと人権センター等が移設され、新たに子育て支援機能や多世代交流機能、地域力発信機能等が設けられ、市民活動の新たな拠点となることが想定される。

これらの機能内容のうち、主に集客すると想定されるのは、「子育て支援機能や多世代交流スペース」など付加される機能による想定年間利用者数は以下の通りである。

付加機能		年間利用者数(人/年)
多世代交流スペース、子育て支援機能、レストラン、コンベンション、社協など	各施設の想定利用者数の詳細は、右の目標値を満たすよう草津駅東地区空閑地土地利用計画にかかる検討会において検討中である。	4 万人

※類似施設(フェリエ南草津、守山市あまが池プラザ)の入込客数を参考に算出

ウ. アニマート跡地テナントミックス事業 【入込客数 11.7 万人増】

アニマート跡地を活用して実施されるテナントミックス事業では、草津駅前というアクセスを活かして、人々が気軽に集まれるような緑を配置した都市の中の癒し空間として整備され、カフェ等の飲食店が6店舗立地することを想定している。これらの整備による想定入込客数は、以下の通りである。



よって、草津宿本陣歴史館整備事業実施による年間利用者数は“1.6 万人”と想定され、平成 30 年度の年間利用者数は、約 3 万人と想定される。

(※1.3 万+1.6 万=3 万人)

カ. 商店街空店舗テナントミックス事業など 【入込客数 10.1 万人増】

商店街の空店舗を活用して実施されるテナントミックス事業では、空店舗の増加や売上額の減少が続く商店街に活気を取り戻すために賑わいを商店街全体に波及させるような魅力ある店舗が立地しやすい環境を整備していくことで、カフェ等の飲食店が 2 店舗と物販店が 2 店舗立地することを想定している。また、波及効果としての魅力店舗が創出されていくことで、カフェ等の飲食店が 1 店舗と物販店が 1 店舗立地することを想定している。これらの整備による想定入込客数は、以下のとおりである。

施設	店舗	年間入込客数(人/年)
商店街空店舗テナントミックス事業カフェ等飲食、小売	4	10.1 万人
波及効果としての魅力店舗創出によるカフェ等飲食、小売	2	
計	6	

※類似施設(大津市なぎさのテラス、守山市歴史文化まちづくり館「うの家」)の入込客数を参考に算出

これらの事業による施設等の利用者がまちを回遊することによって、各測定地点の歩行者通行量が増加する。エリアごとに影響を受けると考えられる事業に基づき、平成 30 年の歩行者通行量を推計する。

3) 活性化事業実施に伴う歩行者通行量増加量の推計

ア. 駅東エリアの一部と草津川跡地周辺(草津駅～草津川跡地、草津川跡地周辺) 【773 人/日増】

駅東エリアのうち、測定地点①、②のある草津駅～草津川跡地の歩行者通行量に影響を与える事業は、「草津川跡地賑わい空間整備事業」と「草津川跡地テナントミックス事業」や「アニマート跡地テナントミックス事業」である。また、これらの3事業は測定地点⑥にも影響を与える事業であるため、ここでは、駅東エリアの一部と草津川跡地周辺をまとめて、測定地点①、②、⑥について考えることとする。

上記で述べた「草津川跡地賑わい空間整備事業」と「草津川跡地テナントミックス事業」による年間入込客数約 30 万人について、利用交通機関ごとの割合を自家用車等利用 50%、徒歩 50%として、歩行者通行量を 1 日あたりの人数に換算すると、

そのうち、測定地点①、②、⑥を通過する人の割合は 50%、往復で同じ道を通ると想定すると、

年間入込客数約 30 万人の 50%/300 日=約 500 人/日

上記で述べた「アニマート跡地テナントミックス事業」による年間入込客数約 11.7 万人について、利用交通機関ごとの割合を自家用車利用 30%、徒歩 70%として、歩行者交通量を 1 日あたりの人数に換算すると、

そのうち、測定地点①、②、⑥を通過する人の割合は 50%、往復で同じ道を通ると想定すると、

年間入込客数約 11.7 万人の 70%/300 日=約 273 人/日

活性化事業実施に伴う測定地点①、②、⑥の増加量=773 人/日

(※500+273=773 人/日)

イ. 駅東エリアの一部(草津駅～草津駅東地区空閑地) 【142人/日増】

駅東エリアのうち、測定地点③のある草津駅～草津駅東地区空閑地の歩行者通行量に影響を与える事業は、「(仮称)市民総合交流センター整備事業」である。

上記で述べた各事業による年間入込客数 4 万人と「市立まちづくりセンター」利用者数の H30 トレンド推計値 10.2 万人/年間について、利用交通機関ごとの割合を自家用車等利用 70%、徒歩 30%として、歩行者通行量を1日あたりの人数に換算すると、 $(4+10.2=14.2$  万人/年間)

年間利用者数約 14.2 万人の 30%/300 日=約 142 人/日

そのうち、測定地点③を通過する人の割合は 50%、往復で同じ道を通ると想定すると、

活性化事業実施に伴う測定地点③の増加量=142 人/日

※市立まちづくりセンターは、草津駅西口近隣から(仮称)市民総合交流センターに移転することから、測定地点の新たな通行量として位置づける。

ウ. 本陣周辺エリア 【273人/日増】

本陣周辺エリアにある測定地点④の歩行者通行量に影響を与える事業は、「草津宿本陣歴史館整備事業」と「商店街空店舗テナントミックス事業」や「波及効果としての魅力店舗創出」である。

上記で述べた「草津宿本陣歴史館整備事業」による年間入込客数約 1.6 万人、及び「商店街空店舗テナントミックス事業」や「波及効果としての魅力店舗創出」による年間入込客数約 10.1 万人について、利用交通機関ごとの割合を自家用車等利用 30%、徒歩 70%として、歩行者通行量を1日あたりの人数に換算すると、 $(1.6+10.1=11.7$  万人/年間)

年間入込客数約 11.7 万人の 70%/300 日=約 273 人/日

そのうち、測定地点④を通過する人の割合は 50%、往復で同じ道を通ると想定すると、

活性化事業実施に伴う測定地点④の増加量=273 人/日

エ. 駅西エリア 【54人/日増】

駅西エリアにある測定地点⑤の歩行者通行量に影響を与える事業は、「(仮称)野村スポーツゾーン整備事業」である。

上記で述べた各事業による年間入込客数約 5.4 万人について、利用交通機関ごとの割合を自家用車等利用 70%、徒歩 30%として、歩行者通行量を1日あたりの人数に換算すると、

年間利用者数約 5.4 万人の 30%/300 日=約 54 人/日

そのうち、測定地点⑤を通過する人の割合は 50%、往復で同じ道を通ると想定すると、

活性化事業実施に伴う測定地点⑤の増加量=約 54 人/日

よって、活性化事業実施による歩行者通行量の増加量の6地点合計は、“約 1,242 人/日”となる。

(※ $773+142+273+54=1,242$  人/日)

この増加量に、過去データの指数近似式より推定した6地点合計 9,958 人/日を足し合わせると、11,200 人/日となり、平成 30 年の目標数値 11,067 人/日を達成できる。

〔事業等による増加数の目標〕

平成 24 年の6地点の歩行者通行量      平成 30 年の6地点の歩行者通行量

約 11,067 人／日      ⇒      約 11,200 人／日 ≥11,067 人／日

(※1,242+9,958=11,200 人／日)

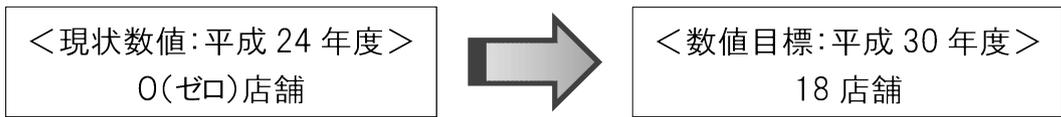
(2) 魅力ある新たな店舗の増加数 (参考指標)

「個性的で魅力のある店舗が集積するまち」の実現に向けて、計画期間内に新たに新店舗を出す魅力ある店舗数を参考指標として設定する。計画期間中には、中心市街地活性化のため、新たに新店舗を出すうち、中心市街地活性化協議会またはまちづくり会社が市場調査等に基づき公募により誘致する店舗出店が予定される。

草津市における中心市街地活性化とは、単に空き店舗や空き地がなくなり、店舗は集積すればよいということだけでなく、旧商店街エリア等が現在捉え切れていないニーズを満たすような個性的で魅力ある店舗が立地する必要がある。そのため、空き店舗や空き地の減少数ではなく、新たに新店舗を出す個性的で魅力のある店舗数を目標指標として設定する。

【数値目標】

・現状の 0 店舗から 18 店舗の増加を見込む



この目標指標は計画期間中に新たに新店舗を出す店舗数を対象とするため、平成 24 年時点では 0 店舗とする。

個性的で魅力のある店舗の立地に影響を与える事業は、「アニマート跡地テナントミックス事業」と「草津川跡地テナントミックス事業」や「商店街空店舗テナントミックス事業」、また、波及効果としての魅力店舗創出が想定される。上記の(1)歩行者通行量で各事業の詳細については記載しているため、以下には想定される店舗数や内容等をまとめる。

事業名	整備される店舗数	実施時期(想定)	面積(m <sup>2</sup> /店)	内容
アニマート跡地テナントミックス	6	平成25年	100	カフェ等飲食
草津川跡地テナントミックス	3	平成27年	100	カフェ等飲食
	3		100	小売店
商店街空店舗テナントミックス	2	平成26～29年	80	カフェ等飲食
	2		80	小売店
波及効果としての魅力店舗創出	1	平成26～29年	80	カフェ等飲食
	1		80	小売店
計	18			

よって、活性化事業実施による魅力ある店舗の増加量は“18 店舗”となり、これが平成 30 年の目標数値となる。

### (3) 福祉・文化・交流施設の利用者数

「幅広い世代が交流するまち」の実現に向けて、福祉、文化、交流のそれぞれの機能をもつ施設の利用者数の増加数を指標として設定する。

#### 1) 過去データから施設利用者数の推計

福祉・文化・交流施設としては、全市的なまちづくり活動を支えるまちづくりセンターと人権センター、中心市街地エリア内の市民センターである草津市民センターと大路市民センター、野村運動公園内にある体育館、テニスコート、グラウンド、及びコンサート等が開催され、市民が様々な文化に触れることができるアマカホール、草津宿の歴史を市民のみならず市外の人にも伝える歴史関係施設として、草津宿本陣、草津宿街道交流館、夢本陣の合計11施設を選定する。

これらの3つの機能をそれぞれにもつ合計11施設の利用者数を選定する。

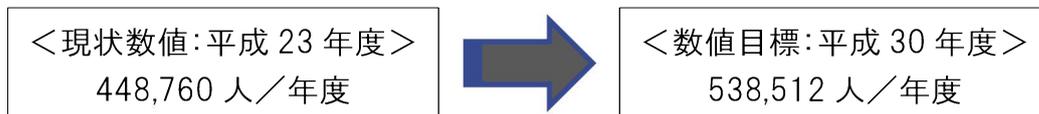
各施設の平成30年度時点の利用者数を推計すると、11施設合計が429,007人／年度となる。

事業等による平成30年度利用者数の増加量は、「(仮称)市民総合交流センター整備事業」(約4万人)、及び「(仮称)野村スポーツゾーン整備事業」(約5.4万人)、ならびに「草津宿本陣歴史館整備事業」の機能充実に(約1.6万人)を見込む。

$$\boxed{\text{平成30年度数値目標}} = \boxed{\text{現状数値(平成23年度)}} \times \boxed{1.2}$$

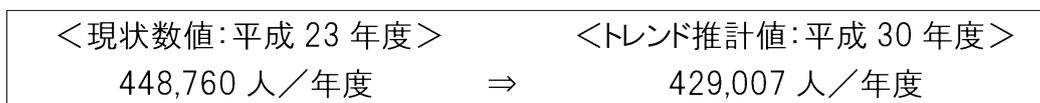
#### 【数値目標】

・事業等により、現状(平成23年度)の448,760人／年度の20%以上の増加を目指す



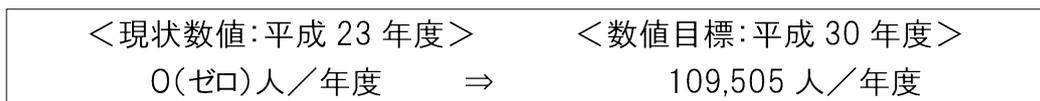
#### 〔トレンド推計値〕

・現状の19,753人／年度の減少で、約4.6%減を推定

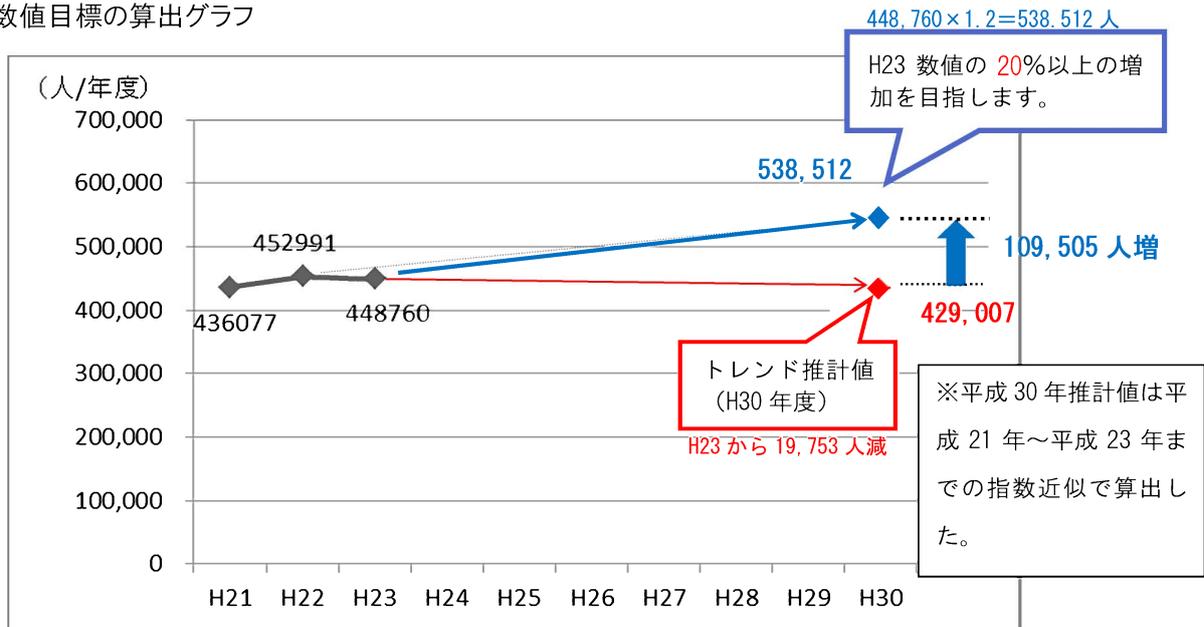


#### 〔事業等による増加数の目標〕

・平成30年度トレンド推計値の109,505人／年度以上の増加を目指す



■数値目標の算出グラフ



■11施設利用者数データ

施設	H21実測値	H22実測値	H23実測値	H30推計値
市立まちづくりセンター	91,385	100,967	101,772	* 101,772
草津市民センター	28,345	34,190	28,301	* 28,301
大路市民センター	22,351	32,445	31,417	* 31,417
人権センター	5,912	6,053	7,514	* 7,514
野村運動公園(体育館)	51,191	51,139	54,339	* 54,339
野村運動公園(テニスコート)	18,712	19,323	22,337	* 22,337
野村運動公園(グラウンド)	84,704	79,662	78,611	* 78,611
アミカホール	* 76,067	* 76,067	76,067	* 76,067
草津宿本陣・街道交流館	37,000	31,700	29,400	13,995
夢本陣	20,410	21,445	19,002	14,654
計	436,077	452,991	448,760	429,007

\* H23実測値の横ばいを推計値としている。

この平成30年度トレンド推計値(429,007人/年度)に活性化事業実施による利用者数の増加量(109,505人/年度)を足し合わせて、数値目標の達成を目指す。

2) 活性化事業実施に伴う施設利用者数増加量の推計

施設利用者数の増加につながる主な活性化事業は、「(仮称)市民総合交流センター整備事業」と「(仮称)野村スポーツゾーン整備事業」や「草津宿本陣歴史館整備事業」の3事業、及び参考としての「草津川跡地賑わい空間整備事業」である。上記の(1)歩行者通行量で各事業の詳細については記載しているため、以下には想定される主な整備内容やそれに伴う施設利用者数の増加量等をまとめる。

〔事業等による増加数の目標〕

・平成30年度トレンド推計値の約109,505人/年度以上の増加を目指す

<現状数値:平成24年度>	<数値目標:平成30年度>
0(ゼロ)人/年度	⇒ 約109,505人/年度以上

■活性化事業に伴う利用者数増加量

事業名	主な事業内容	事業実施に伴う利用者数の増加量
(仮称)市民総合交流センター整備事業	子育て支援機能整備 多世代交流スペース整備 緑地、多目的広場整備	4万人
(仮称)野村スポーツゾーン整備事業	体育館建替え	5.4万人
草津宿本陣歴史館整備事業	草津宿本陣歴史館新設	1.6万人
計		11万人

↓約11万人

よって、施設利用者数の増加量 110,000 人／年度  $\geq$  109,505 人／日となり、目標数値を達成する。

【参考】

事業名	主な事業内容	事業実施に伴う利用者数の増加量
草津川跡地賑わい空間整備事業	店舗整備(飲食3、小売3) マルシェ開催 市民活動プログラム実施	約30万人

※「草津川跡地賑わい空間整備事業については、正確な測定が困難であるため、参考数値とする。

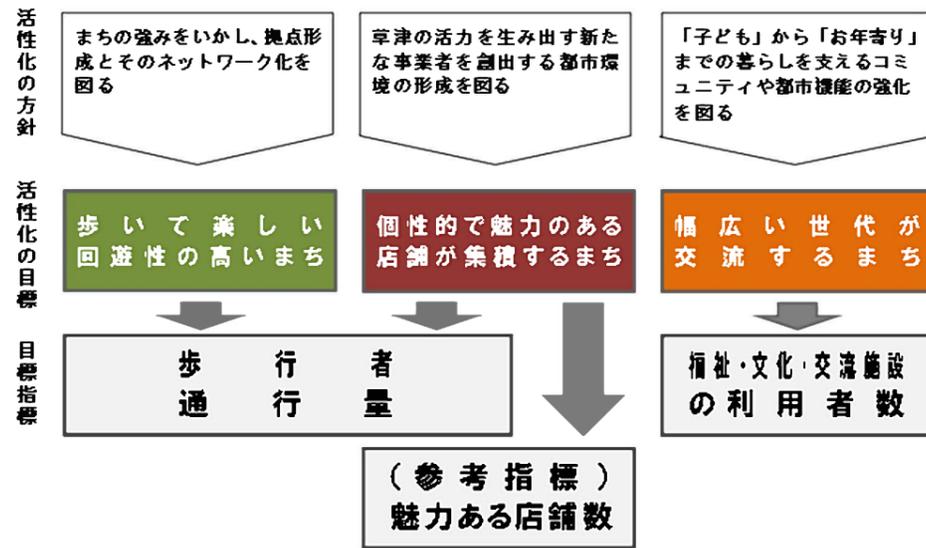
この増加量(11万人／年度)に、平成30年度の推計値の11施設合計429,007人／年度を足し合わせると、539,007人／年度となり、これが平成30年度の目標数値を達成する。

(※110,000+429,007=539,007人／年度)

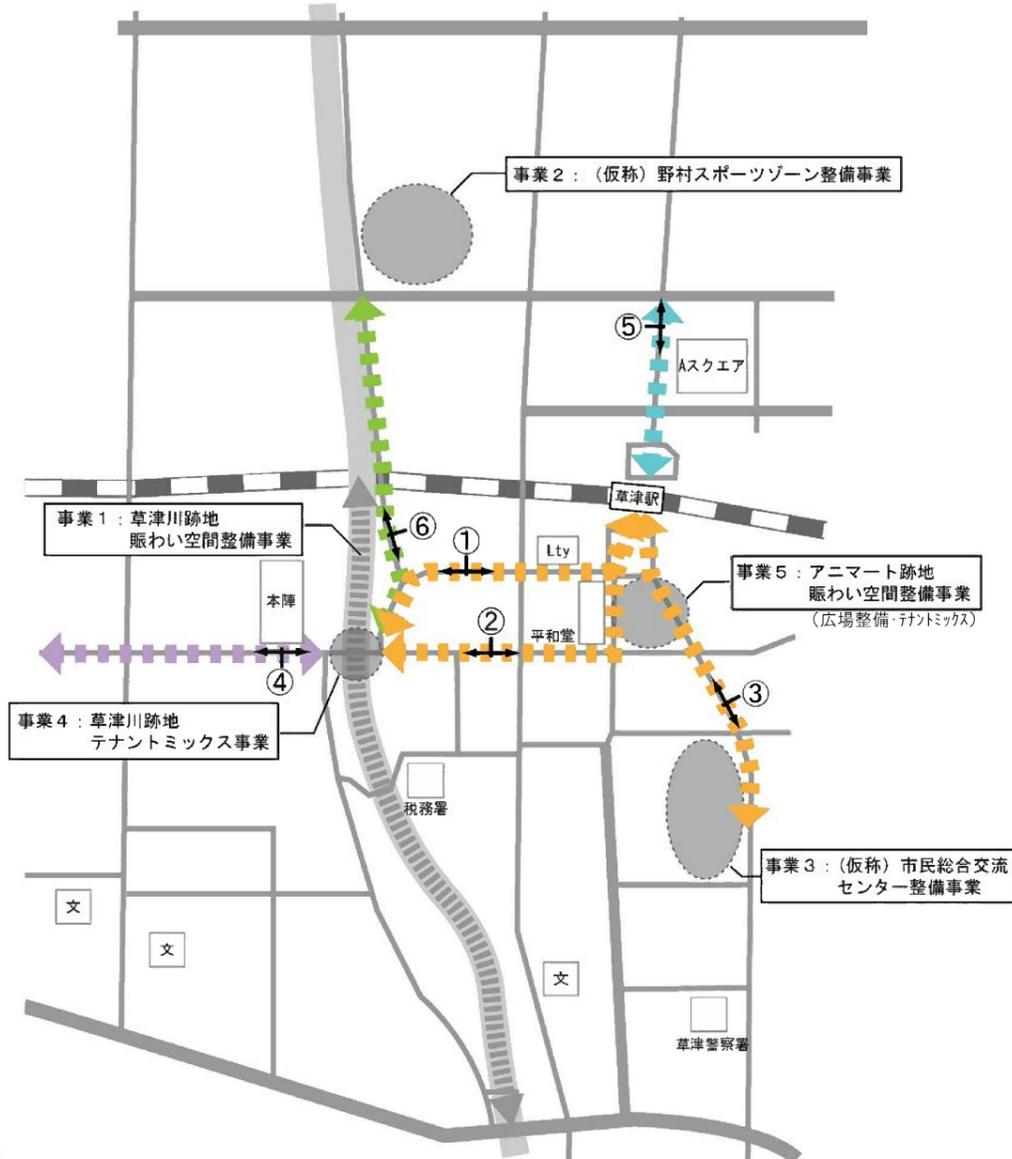
平成23年度の11施設の利用者数 448,760人／年度	⇒	平成30年度の対象施設の利用者数 539,007人／年度 $\geq$ 538,512人／年度
---------------------------------	---	--

# ■数値目標の設定とその考え方

## 【活性化目標と目標指標】

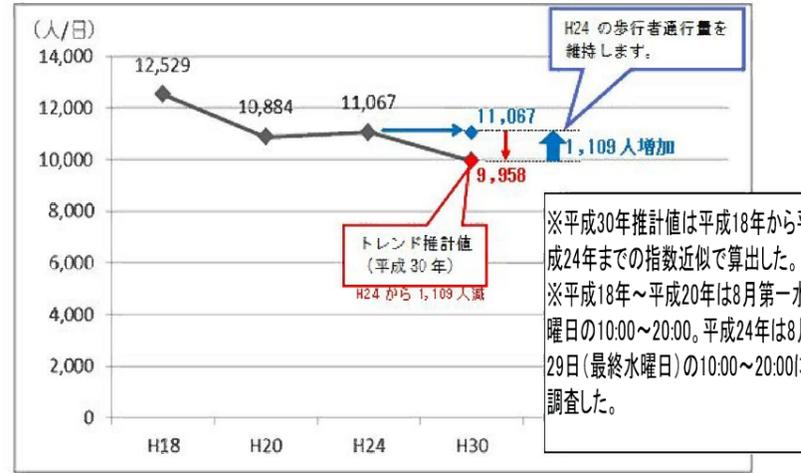


## 【歩行者通行量測定地点図】



# 1. 歩行者通行量の数値目標

## ■数値目標の算出グラフ

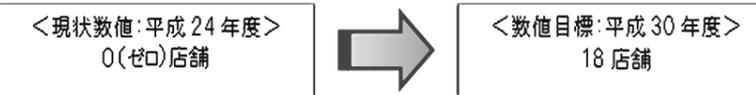


事業名	入込客想定	徒歩割合	営業日数	歩行者増数	地点	
対策を講じない場合(平成30年トレンド推計値)A					9,958	①～⑥
草津川跡地賑わい創出 草津川跡地テナントミックス	300,000	0.5	300	500	①②⑥	
アニマート跡地テナントミックス	117,000	0.7	300	273	①②⑥	
(仮称)市民総合交流センター整備 10.2万人+機能付加分4万人	142,000	0.3	300	142	③	
草津宿本陣歴史館整備	16,000	0.7	300	37	④	
商店街空店舗テナントミックス	101,000	0.7	300	236	④	
(仮称)野村スポーツゾーン整備	54,000	0.3	300	54	⑤	
小計B				1,242	①～⑥	
合計 平成30年度(A+B)				11,200	①～⑥	

目標値 11,067人/日 < 11,200人/日

# 2. 魅力ある店舗数の数値目標

## ■数値目標



事業名	整備される店舗数	実施時期(想定)	面積(m <sup>2</sup> /店)	内容
アニマート跡地テナントミックス	6	平成25年	100	カフェ等飲食
草津川跡地テナントミックス	3	平成27年	100	カフェ等飲食
	3		100	小売店
商店街空店舗テナントミックス	2	平成26～29年	80	カフェ等飲食
	2		80	小売店
波及効果としての魅力店舗創出	1	平成26～29年	80	カフェ等飲食
	1		80	小売店
計	18			

# 3. 福祉・文化・交流施設の利用者数の数値目標

## ■数値目標の算出グラフ



事業名	利用者数
対策を講じない場合(平成30年トレンド推計値)A	
草津宿本陣歴史館整備	16,000
(仮称)市民総合交流センター整備(子育て支援、多世代交流、社協のみ) (まちづくりセンターはエリア内移転であり除く)	40,000
(仮称)野村スポーツゾーン整備(体育館利用者のみ)	54,000
(仮称)野村スポーツゾーン整備(興業による利用者)	
小計B	110,000
合計 平成30年度(A+B)	539,007

目標値 538,512人/年 < 539,007人/年

※11 施設利用者数(市立まちづくりセンター、草津市民センター、大路市民センター、人権センター、野村運動公園(体育館・テニスコート・グラウンド)、ファミール、草津宿本陣、街道交流館、夢本陣)